

福島第二原子力発電所からのお知らせ（平成25年 8月号）

福島第二原子力発電所 1～4号機は、安定した冷温停止を維持しています。発電所の最新状況や、様々な取り組みをお知らせします。

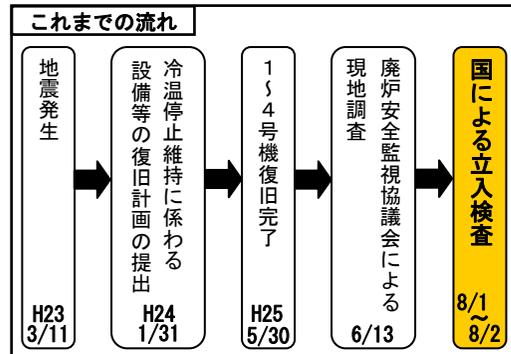
1号機において 国による立入検査が行われました。

- 震災以降、当所は、冷温停止の維持に係わる設備等の本設設備への復旧を進め、本年5月30日、1号機の復旧をもって、全号機（1～4号機）の復旧が完了しました。
- 8月1日から2日にかけて原子力災害対策特別措置法に基づく国（原子力規制庁）の立入検査が行われました。
- 立入検査では、現場での設備の復旧状況の確認や、設備の復旧にあたり、品質管理が適切になされているか、設備の健全性は確保されているかなどの観点から書類の確認がなされ、当所からは緊急時対策本部長（発電所長）を筆頭に各班長他対策本部長が対応しました。
- 現在、立入検査で確認された内容について、評価が行われています。

○立入検査の様子



【当社による事前説明】



【非常用ディーゼル発電機】



【残留熱除去機器冷却系電動機】

2号機の原子炉開放作業を実施します。

- 原子炉に装荷されている燃料については、設備の維持管理の簡素化の観点から使用済燃料プールへ移動し、一括管理することとしています。その燃料移動のため、原子炉開放作業を行う必要があります。
- 原子炉開放作業に先立ち、燃料移動に必要な設備（原子炉建屋天井クレーン、燃料取扱装置、使用済燃料貯蔵ラック）の健全性の確認、準備を進めてきましたが、それらの準備が整ったことから、8月26日より10日間程度かけて作業を実施します。
- その後、9月中旬に、原子炉から使用済燃料プールへの燃料移動を開始する予定です。

○原子炉開放作業とは

コンクリートハッチ、原子炉格納容器の蓋、原子炉圧力容器の蓋、蒸気乾燥器、気水分離器の取り外しを順次行っていく作業です。

写真は4号機の開放時における原子炉圧力容器の蓋取り外しの様子（平成24年9月14日撮影）



○燃料移動に係わる作業の予定表

号機	作業内容	平成25年度	平成26年度
1号機	燃料移動に必要な設備の点検	■	
	原子炉開放と燃料移動		■
2号機	燃料移動に必要な設備の点検	■ 7/10までに完了	
	原子炉開放と燃料移動	① ②	①原子炉開放：8/26～9月上旬 ②燃料移動：9月中旬～10月上旬
3号機	燃料移動に必要な設備の点検	■	
	原子炉開放と燃料移動		■
4号機	燃料移動に必要な設備の点検	平成24年度完了	
	原子炉開放と燃料移動	平成24年度完了	

震災の経験から得た教訓をもとに 技術力強化のための訓練を行っています。

- 当所は、東北地方太平洋沖地震に伴う津波により、電源盤やモータ等が浸水し使用できない状態になるとともに、発電所構内にはガレキが散乱している状況でしたが、多くの協力企業の皆さまにご協力をいただき、復旧にあたった結果、平成23年3月15日までに全プラントを冷温停止することができました。
- 震災以降、緊急安全対策として、資機材の確保、電源の強化（電源車、空冷式ガスタービン発電機車の配備）、注水手段の確保（消防車の配備）を進める一方、万一、震災時と同様の状況に至った場合でも、当社社員単独で初動対応を行うことができるよう、訓練を重ねてきました。
- 本年7月からは、震災時の経験から得た教訓をもとに以下4つのプロジェクトチームを結成し、機器が壊れた場合でも当社社員単独で対応できる技術力の習得訓練を、各チームにより計画的に行っています。この訓練は、当社の原子力安全改革プラン（本年3月公表）においても、技術力向上に向けた重要な改革の一つとして、位置付けられています。

○当所における技術力強化プロジェクトチーム概要

チーム名	体制	リスク対応
モータ取替チーム	各チーム 4班体制 (7名/班)	水没して使用できなくなったモータを予備のモータと取り替えます。
ケーブル接続チーム		取り替えたモータへ電源を供給するためのケーブルを布設し、モータを動かします。
ポンプ復旧チーム		水没して使用できなくなったポンプの軸受を取り替えます。
ガレキ撤去チーム		上記作業を行うために道路のガレキの撤去ならびに砂利や鉄板で道路を復旧します。



写真は、津波の被害によりモータが使えなくなった場合でも、すみやかに復旧できるよう「モータ取替チーム」がモータを取り替える訓練を行っている様子です。

各プロジェクトチームによる訓練内容等の詳細については、今後、紹介していきます。

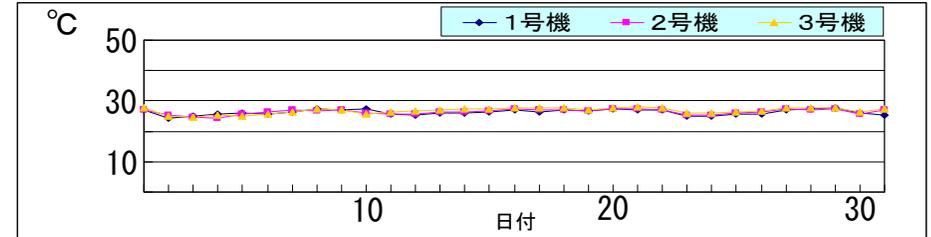
当所は、引き続き安定した冷温停止を維持してまいります。

【プラントデータ】

燃料の冷却状況（7月分）

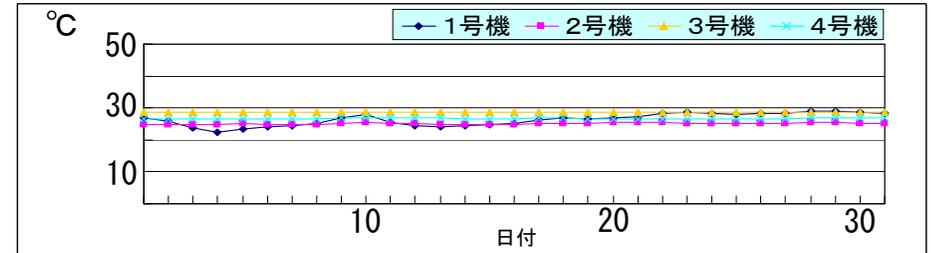
原子炉水および使用済燃料プール水の温度は、約30℃程度で安定して推移しており、燃料の冷却を維持しています。

【原子炉水温度】



4号機は平成24年10月24日までに原子炉内から764体の燃料すべてを取り出し、使用済燃料プールへ移動しました。

【使用済燃料プール水温度】



発電所敷地周辺および構内の空間放射線量率

発電所敷地境界付近の空間放射線量率（1時間あたりの放射線の量）を連続で測定・監視し、当所に起因する変動がないことを確認しています。その状況は当社ホームページでもご覧いただけます。

<当社ホームページ><http://www.tepco.co.jp/nu/fukushima-np/f2/index-j.html>



□ : 7月31日（午前9時）測定

● : 7月9日～18日測定

単位：マイクロシーベルト毎時

※マイクロシーベルト=ミリシーベルトの1,000分の1



モニタリングポスト (MP)